

Title	生活費の組織的研究の必要
Author(s)	山本, 美越乃
Citation	經濟論叢 (1920), 10(1): 119-124
Issue Date	1920-01-01
URL	<a href="http://dx.doi.org/10.14989/127611">http://dx.doi.org/10.14989/127611</a>
Right	
Type	Departmental Bulletin Paper
Textversion	publisher

# 京都帝國大學經濟學會 經濟論叢

第十卷 第一號

大正九年一月一日發行

## 論 說

温情主義と勞働問題……………

法學博士 田島 錦治

手數料決定上の二問題……………

法學博士 神戸 正雄

モリスの文明觀と藝術觀と勞働觀……………

法學博士 河田 嗣郎

所帶統計概説(二、完)……………

法學博士 財部 靜治

キヤナンの富の概念に就きて(一)……………

法學士 石川 興二

## 時事問題

智識階級の解散……………

法學博士 戸田 海市

朝鮮の財政獨立に就て……………

法學博士 小川郷太郎

## 雜 錄

生活費の組織的研究の必要……………

法學博士 山本美越乃

判任官生活の實狀……………

法學士 汐見 三郎

獨逸大銀行の取引所仲立業に就きて……………

法學士 大森 研造

我國<sup>に於ける</sup>新ブルジョア階級の成立(二、完)……………

圓 谷 弘

カンニンガム博士逝く……………

法學士 本庄榮治郎

京都帝國大學經濟學會第一回講演會記事……………

生活費の組織的研究の必要<sup>(1)</sup>

山本美越乃

現今各國に於ける重大問題の一は實に生活費に關する問題にして、輒近著しく騰貴せる物價が國民の健康及幸福上に如何なる影響を及ぼしつつあるかは何人も知らんと欲する所たり、而して此の問題を考察せんと欲せば少くとも、(一)現に各人は衣食住其の他の享樂の爲めに過度の消費を爲しつつあるの傾なきや、(二)生活費は貨幣賃金又は貨幣所得の増加に比して急激に増加せんとするが如き傾向なきや、(三)若し貨幣所得の増加が生活費の増加の割合よりも多しとせば其の餘剰は如何に處理せらるるや、奢侈的及非衛生的消費の爲めに使用せらるるや、或は從來得んと欲するも得べからざりし必需品を購入することに依りて國民の健康及幸福の増進を資けつつありや、或は之を蓄積して一國の富源を増

加せるや如何、(四)若し又貨幣所得の増加が生活費の増加の割合よりも少しとせば實際上の賃金は低落せるものと言ふを得べく、實際上の賃金にして低落せば其の結果一般の消費力を減退せしめ、消費力の減退は延て國民の健康及幸福上に有害なる影響を及ぼすことなきや、或は之に因りて單に奢侈的消費其の他諸種の無益なる失費を節約せしめ、却て國民の健康及道義の維持に有效なる結果を齎すことなきや等の諸點に注意せざる可からず、然れども是等の事項は各人其の地位を異にするに従ひ(例へば資本家は資本家の見地より、勞動者は勞動者の見地より、又俸給生活者は俸給生活の見地より)各見る所を異にするを以て、之に對して總括的の意見を立つることは頗る困難なりと言はざるべからず。

國民の生活費の組織的研究の必要なることは從來屢々提唱せられたる所なるも、一個人・公共團體又は一二の地方的研究の完成せるものは之なきに非ずと雖も、一國全體に亘りて組織的研究を遂げたるものは今日に至り迄未だ之を

(1) これは米國勞働統計局委員 Royal Meeker 氏の Relation of cost of living to the public health (Monthly Labor Review, vol. VIII, No. 1) の要旨に準見を加へたるものなり、

發見せず、若し今次の大戦前に各國に於て此の種の研究に着手したらんには、今日例へば生活費の増加を理由として賃金の増加を要求せんとする労働者の運動に對しても、生活費の増加の割合を調査することに依りて理由ある決定を與ふることを待べかりしなるべし、労働上の諸般の問題に關しては他國に率先して之が解決に努めつつある米國に於てすら此の種の研究は比較的閑却せられしが、一九一八年七月に至りて大統領は遂に三十萬弗を支出して全國に亘る生活費の組織的調査を爲すべきことを労働統計局に命じたり、而して該計畫の目的は労働階級に依りて消費せらるべき重要な貨物の數量及價格に付き、各都市の間に於ける異同を明かならしむると共に、又是等の都市の小賣價格は六箇月毎に再調査を爲し、殆んど全國に亘りて重要な工業都市は勿論小市街と雖も代表的の工業又は鐵業地は凡て之を研究區域内に入れ、更に大都市と小市街との間に於ける物價の差異をも明瞭ならしめんとするに在り、此の調査は現に進

行中に屬し之が完成の曉には労働階級の各種の消費物の價格及異なる收入を有する労働者の異なる消費物に對する支出の狀態等に關して有益なる參考の資料に接することを得ん、此の如き調査の齎す重要な結果の一は、衣食住・燃料・燈火・家具・醫療・保險・勉學・新聞・書籍・娛樂・乘車其の他諸種の保健及享樂に必要な經費を明かならしめ、以て一家の標準的豫算の編成に缺くべからざる資料を提供するに在りと言ふを得べし。

今日に至る迄行はれたる生活費の研究は主として食料品に限られ、食料品以外の消費の狀態に關しては等閑に附せられたるが如き感あるも苟くも一家の標準的豫算を知らんと欲せば、食料品以外の諸種の經費に付きても亦細密に之を調査せざるべからず、之と同時に生活の必需品の價格の騰貴と、生活程度の向上の爲めに増加したる費用との區別及其の相互の關係をも明かにせざるべからず、而して之を爲すには單に貨幣價格に依りて表示したる豫算以外に、必要な

る貨物及勞務の種類及數量を以て表示せる豫算を編成するの要あり、固より細密なる標準的豫算を編成することは極めて困難なりと雖も、現在の如くに殆んど何等の標準なくして入るに従ふて消費するが如き收支の状態は之を改めざるべからず、假令其の事業は困難なるも一家の收支を一定の標準に照して按排せしむることは、生活費の増加を理由として賃金の増加を要求せんとする聲の益々大ならんとする現今の時代に於ては、産業社會の平和の爲めにも亦各人の健康及幸福の増進の爲にも最も肝要なりと稱せざるを得ず、此の如き目的に應ずべき一家の標準的豫算は單に机上の空論に據りて編成し得らるべき者に非ずして、現に勞働階級の消費しつつある貨物及勞務の種類并に其の數量等を仔細に調査して然る後初めて作成し得べきものなり。

標準的豫算の項目には其の分に相應し、且健康及幸福の増進に必要な消費物の種類及數量を掲せざるべからず、人は貨幣に依りて其の生命を支ふるものに非ざるが故に、貨幣價格の

みに依りて示されたる豫算は此の種の目的に應せんが爲めには不充分たり、今假りに食料品に就きて之を觀察するも一人一日の食費何程と云ふのみにては未だ不充分にして、各食料品中に包含せる熱量即ちカロリーこそ健康保持の必要條件なるを以て、各人が其の分に應じて消費すべき貨物の種類及數量を明かにすることは標準的豫算の任務たらざるべからず、例へば成年男子の勞働者は平均一日三千乃至三千五百カロリーを攝取し得べき食料を消費するに非ずんば、以て健康の保持に必要な食料を消費したりと稱するを得ざるが故に、之が貨幣價格の如きは寧ろ從たる問題たるが如き是れなり、故に將來は食料品の價格はカロリーを基礎として之を定むること、恰も英國に於て石炭の價格を噸數に依らずして熱量單位 (Thermal unit) に依りて定むるが如くならしむることは最も望ましきことに屬す、斯かる價格の算定法は日常の食料品例へば米・麥・麪包・砂糖・鶏卵・肉類・野菜等に付きては必ずしも實行不可能に非ず、然れども此の

方法を採用せんとせば、各人は食料品中に包含せる熱量に關する知識を有すると共に、又其の適當なる配合換言せば蛋白質・脂肪質・炭水化物・糖分・礦物質・酸類・纖維質等の體內に於ける調和量に常に注意せざる可からず。

次に住宅に關しては米國に於ける専門家の調査に據れば、夫妻及三兒(十四歳以下の)即ち一家五口の代表的家族(以下代表的家族なる語を此の意義に於て使用する)に對する住宅の標準は、少くとも四室(厨房兼食事室、居室・小兒寢室及大人寢室)以上を有するに非ずんば保健上完全なるものと稱すべからずと謂ふ、而して米國に於ては此の要求は概して満足に充たされつつあるものの如し、但し標準的住宅の要件としては以上の他更に空氣の流通光線の投入及空地の有無等に注意すること肝要なり。

生活維持の要件中食住に關しては其の最少限度の標準を求むること必ずしも困難ならずと雖も、爾餘の消費物に付きては之が標準を發見すること甚だ難し、例へば衣の如きも熱量又は他

の客觀的の基準に照して其の必要量を測定すること能はず、又假令之を測定し得べしとするも食住以外の需要品に付きては各人の嗜好に著しき差異あるを以て一般的に之を論すべからざるものあり、故に斯かる需要品に對して吾人の爲し得る調査は、如何なる種類の衣服及附屬品を一般勞動者は使用し、又其の耐久力如何と云ふことは是れなり、而して是等の調査を基礎として其の分に相應し且保健の目的を達するに必要な貨物の種類及數量を定むるの他なし、這是家具等に關しても亦同じ。

從來一家の豫算に於て最も重要な地位を占むるものの多くは雜費の名稱の下に一括せられて殆んど顧みられざるが如し然れども一家の豫算中食費に次ぎて重大なる關係を有するものは實に此の種の費用にして、米國に於ける調査に據れば地方に依りては雜費の額は一家の總支出額の約二割五分の多きに達すと謂ふ、雜費中吾人の健康及幸福の増進に直接關係を有するものは醫療費なるも、代表的家族に對する醫療費は

何程を以て標準となすべきかは現今之を知るに由なし殊に労働者間に在りては無料診療所又は慈善病院等を利用するか、若くは自宅に於て賣藥療法を行ふ者多く、偶々醫師を招くことあるもそれは死亡診断を依頼するに過ぎざるが如き實況にあるを以て、代表的家族の醫療の必要の程度を客觀的に推定し得べき唯一の方法は、一年を通じて家族の各員の罹病日數を調査し、之を基礎として間接に保健及幸福増進の爲めに醫療を必要とする程度を測定するより他に途なし。

雜費中醫療に次ぎて重要なものは保險費たり、近時各國に於ては労働者が疾病・罹災・老衰・失職・死亡等の不幸に遭遇したる場合には、之に對して相當の保護を與ふるの途を開きつつあるも、然かも全然事業利益を度外視して、社會全般の爲めに社會事業として之を行ふ特殊の保險制度の普及するに至らざる限りは、労働者の不慮の災厄に對する保護は未だ以て充分なりと稱するを得ず、故に社會保險制度の實現せらるるに至る迄は、家族扶養の責任を有する者は、

自己の死後少くとも一箇年間は遺族の生活を支ふるに足る程度の生命保險を附するに必要な費用を、一家の豫算中に計上せざる可からず、其の他疾病・罹災・老衰・失職等の爲めに労働不能に陥れる場合に、生活程度を著しく低下することなくして一家を支へ得べき準備を爲すがためにも、亦相當額を豫算中に見積らざる可からず、何となれば是等の不幸に對しては、現今労働組合又は共濟組合等に依る不充分的救濟方法以外には、全く各人の克己自救に依るの他途なきを以てなり、然れども此の如き目的に應ずべき費用の標準を定むることは甚だ困難にして、生命保險以外の保險料に關しては、各人が之が爲めに現に支出しつつある平均額より間接に其の標準を推知し得るに過ぎず。

最後に娛樂の人生に必要なことは敢て衣食に劣らず、故に之に對しても亦一家の豫算中に相當額を計上するの要ありと雖も、是又人に依りて其の種類及嗜好の烈度を異にし、甲にとりて有益なるものも乙にとりては却て有害なるこ

となしとせざるが故に、代表的家族の健康及幸福の増進に必要な娛樂の種類及程度を示すことは頗る難しと言はざる可からず、唯此の場合に於ても亦最も普通に勞働者の家族に依りて嗜好せらるる、活動寫眞・演劇・舞踊・講談其の他に類する娛樂の費用の一般的平均額を調査して其の標準となすの他なかるべし。

要之、一家の標準的豫算の編成は最も困難なる事業の一にして、豫算編成者と雖も時としては自己の編成せる標準的豫算の普遍的の效力に關しては疑なき能はざる場合多し、然れども消費の標準を定むることは絶對的に必要にして、此の如き標準を發見することに依りて初めて賃金問題を論議する者に對しては正當なる賃金の要求點を知らしめ、一家の經濟の處理者に對しては支出を増加することなくして從來よりも健康及幸福の増進に一層適切なる消費方法を教ふることを得べし。

人としての生活を完ふするに必要な賃金を與へよとは方今各國に於ける勞働者の賃金増加

の要求に對する根本的の理由たり、然れども其の所謂人としての生活を完ふするに必要な賃金なるものは何を標準として之を測定すべきや、唯漠然斯かる主張を爲すも其の標準を發見すること能はざるべし、於茲乎吾人は前述の如き標準的豫算を根本的に研究して之を編成するの急務たるべきを感せずんばならず、若し此の如き標準にして存せんか之に照して勞働者の主張の當否をも之を明かにすることを得べく、又彼等の消費が健康及幸福の増進上より觀察して、果して正鵠を得たるものなりや否やをも之を批判することを得べきなり。